

小児総合病院の精神科医の立場からみた児童虐待

三宅 和佳子

児童虐待は年々増加している。虐待を受けた子どもへの心理的影響は大きく、家庭や学校などで不適応となり精神的なケアを必要とすることが多い。症状は継続的な場合もあり、大人になって精神症状を抱えることも多い。虐待を受けて親になった養育者は子育てのなかで自分の養育環境をふりかえらざるをえないことなどから、養育の困難さにつながることもある。また、精神疾患の養育者は、子どもの様子をうかがい子どもの調子にあわせて対応することなどが難しいことが多い。虐待を受けた子どもの精神面に対する治療や、養育者への精神疾患を考慮した支援体制が必要である。

<索引用語：児童虐待，心理的影響，小児病院，児童精神科>

はじめに

大阪府では、児童相談所における児童虐待相談対応件数は年々増加し年間 10,427 件（平成 27 年度速報値）となっており、5 年前と比べると全国の統計と同じく倍増している^{4,6,7}。当院は大阪府の周産期医療部門と小児医療部門をもつ小児総合病院であり、当科はその児童精神科部門である。虐待を受けた子どもたちは、イライラ感、不眠、対人関係のトラブルなどから、家庭、学校、入所施設などで不適応となり当科を受診することがある。愛着障害や、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、注意欠如・多動症 (ADHD) など、児童相談所や入所施設との協力体制を作り、薬物治療や心理治療などの治療を必要とすることも多い。しかし、長期間に及ぶ虐待や性的虐待などの場合は、安定した対人関係を継続することさえ難しく受診が途切れることもある。

一方、当院の身体科においては、体重増加不良、頭腹部や四肢などの外傷などの身体的虐待、ネグレクトの子どもたちも受診する。そのような子

どもたちは、身体的な問題とともに精神的な影響も大きく、発達の遅れや、愛着の不安定さなどがみられることが多いため、養育の困難さが繰り返す虐待へとつながるケースも多い。

養育者のなかには、幼少時に虐待を受けてきた人が多く、子育て場面は自らの養育環境をふりかえらざるをえないことなどから精神的負担が大きいことも関係すると思われる。また、統合失調症、うつ病などの精神疾患をもつ養育者は、子どもの調子にあわせて対応することなどが難しいことなどから、虐待につながるケースもある。周産期医療部門においては、精神面に問題を抱える妊婦が増加している。虐待へつながらないように精神科受診を勧めるなど、妊娠、出産、その後の子育てを見据えた支援体制が必要となっている。

I. 大阪府の虐待対応件数について

全国の虐待対応件数は年々増加している。大阪府の養護相談における虐待件数の平成 21～26 年の推移を、図 1 に示した。大阪府においても、こ

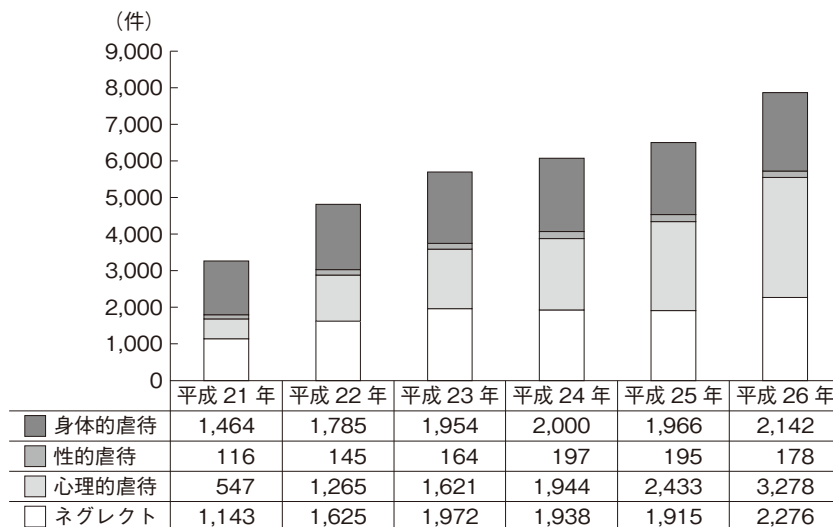


図1 大阪府の養護相談における虐待件数の推移

の5年間をみると倍増しており、平成21年には3,270件だったものが、平成26年には7,874件、平成27年には10,427件(速報値)となっている。また、大阪市西区で起きた虐待事件による社会認知の高まりや、「児童虐待防止」テレビCMによる啓発効果もあり平成22・23年には件数が大幅に増加した^{4,6,7)}。

種別としては、身体的虐待のみでなく、心理的虐待が年々増加している。心理的虐待の増加については、警察からのDV事案にかかる通告、近隣住民からの泣き声通告を心理的虐待として計上するためであるが、警察や学校などで虐待への認識が高くなったことなども関係すると思われる。性的虐待については、増加傾向からこの数年は横ばいとなっている。学校などでの啓蒙活動もあり学校からの性的虐待の通告件数が増加してきていたが、まだ明らかになっていないケースが潜在していると考えられる。

II. 大阪母子医療センターについて

当院は、大阪府域における周産期医療の専門的な基幹施設として、地域の医療機関では対応が困難な妊産婦や低出生体重児、新生児に対し、高度・専門医療を行うため、昭和56年10月に診療

を開始した。平成3年には、小児医療部門(子ども病院)を開設し、乳幼児などに対しても新生児期からの一貫した医療を行っている。診療科は、周産期部門、小児医療部門の外科系、内科系、中央診療部門とあり、周産期部門では、大阪府全域から精神疾患などの合併症をもつ妊婦や、妊娠期に胎児奇形が見つかった妊婦などの、ハイリスク妊婦が受診している。外科・内科系各科には、重篤な疾患の子どもが数多く受診する。

III. 病院全体における子ども虐待への取り組みについて

小児総合病院である当院の身体科には、体重増加不良、頭腹部や四肢などの外傷、骨折などの身体的虐待、ネグレクトなどを疑われる症例が多く受診する。

当院では、子ども虐待防止委員会という組織を作り、方針会議を年2回行うとともに、事例発生時には児童相談所などへの通告を含め方針を決定する会議を適宜行っている。下部組織の小委員会では、各科医師、各病棟・外来看護師、ソーシャルワーカー、保健師、心理士などが毎月事例を検討し病院全体で共有するとともに、より迅速かつ的確な動きに向けてのマニュアル作りや、全職員

表1 子どものこころの診療科平成27年度初診時の主たる病名 (587名)

発達障害・行動上の問題など	378名	心身症・神経症など	146名
知的能力障害	63	チック症	11
知的能力障害 (境界域)	4	吃音	3
言語症	12	不安症	8
自閉スペクトラム症	233	分離不安症	18
注意欠如・多動症	31	選択性緘黙	7
学習症	12	強迫症	1
知的能力のアンバランス	18	抜毛症	2
素行症	2	反応性愛着障害	6
構音障害	2	心的外傷後ストレス障害	6
運動発達遅滞	1	急性ストレス障害	1
発達障害などを疑ったが問題なし	9名	適応障害	8
抑うつ障害群・器質性精神病など	5名	身体症状症	48
抑うつ障害群	1	転換症	1
器質性精神障害	2	摂食障害	6
外傷後精神障害	2	遺尿症/夜尿症	7
心理・発達フォロー	31名	遺糞症	1
腎移植関連	3名	睡眠障害	2
母のメンタルサポート	1名	心因反応	1
マルトリートメント	14名	単一恐怖	1
		夢遊症/夜驚症	2
		不登校	6

(文献5より一部改編)

に対しての啓蒙活動などを行っている。また、病棟や外来で虐待が疑われる症例について相談できる場を設けるとともに、各病棟をラウンドしてより相談しやすい体制を作り、虐待事例に気づき、よりの確かつ迅速な対応につながるように努めている。精神面、発達面の問題で、子どものこころの診療科の受診につながることも多い。病院全体における子ども虐待への取り組みとして、受診する身体科、児童精神科のみならず、多職種が連携し、気づき、対応してゆく必要がある。

また、この数年社会的ハイリスク妊婦が増加しており、精神的な問題を抱えているケースも多い。受診時、精神科に通院を続けているケースもあるが、通院が途切れているケース、受診していなかったケースも多くある。妊娠継続して出産に備えるため同意が得られた方には非常勤の精神科医の診察を受けていただくようにしている。出産後においても継続した精神科通院が必要な方も多い。地域の精神科を紹介し、保健師などを通じて

情報提供するなど連携するように努めている。養育者が安定した精神状態で子育てをできるよう支援することは、虐待予防にとっても大切なことであると考え。

Ⅳ. 児童精神科における虐待とのかかわり

子どものこころの診療科においては、子どもの精神科診療を行っている。初診時の主たる病名を、表1に示した⁵⁾。多くは発達障害が占めるが、マルトリートメント (不適切な養育) の受診も一定を占める。虐待に関連する、愛着障害、PTSD、素行症、また、ADHD、抜毛症、チック症、遺糞症、夜尿症、不登校などとして受診した子どもたちも経過をみてゆくと背景に虐待があることがよくある。その際には、まずは子どもの状態を考慮してのかかわりが必要であるが、養育者の精神状態を考慮すること、関係機関と協力体制を作ること重要となる。

例えば、母親からのネグレクトの影響があり愛

着障害と診断された場合などは、母親自身も幼少期に虐待を受け精神科に通院しているケースがある。母親の精神状態の不安定さが子育ての困難さへとつながっている可能性が考えられる。そのような場合には、母親の精神的な面を考慮した対応が必要である。

また、発達障害を疑われて受診したが、母親が精神疾患であり病状も不安定なために養育状況が整わないなどの環境要因の影響が大きいケースがある。つまり、母親の病状の不安定さにより子育てが困難になり、結果として発達障害類似の症状を呈するようになったと考えられる場合などである。しかし、子どもが多動であったり、反抗的な態度で接したりすることにより、母親は子どもへの対応にさらに困難を感じることになる。一方では、子どもの多動や攻撃性により母親がゆっくりと休息できないことなどが母親の病状にも影響することもある。このような場合には、母親と子ども両方の症状をとらえた対応が不可欠と考えられる。

さらに、関係機関と協力体制を作り、地域で親子を支えてゆくことも大切な要素である。保健センター、保育園、学校、家庭児童相談室、児童相談所などの子どもにかかわる機関に加え、母親の精神保健福祉担当者、母親の受診している病院などと連携し、子どもを養育しているという母親の状況を考慮した支援を考えてゆくことが必要である。学校などで子どもへの対応を考えるとともに、放課後デイケア、ホームヘルプサービスなどを活用し母親の負担を減らすこと、母親の安定した精神科受診、安定した病状につながるような対応を考慮することなどが必要と思われる。

児童養護施設などに入所している子どもにおいては、施設との連携が大切である。虐待のために施設入所している子どもでは、イライラして他児とトラブルになること、勉強などに集中しにくいこと、夜間眠れないと夜更かしして登校しないことなどが問題行動と認識されることがあるが、精神科を受診した結果、虐待によるトラウマ症状であることがわかるケースがある。薬物治療などとともに、子どもと施設職員にトラウマの心理教育

を行い、問題行動ととらえて対応せず、生活での工夫や、リラクゼーション方法などの対処法を身につけることなどにより、症状が軽快し生活が落ち着くことがある。虐待によるトラウマ症状であることを子どもと施設職員両方が認識し対応することで安心感が増すことなどが、軽快につながると思われる。施設入所している際には、施設は生活の場であり、子どもを守る大人である施設職員の理解、連携が大切な要素となる。

V. 虐待を受けた子どもの心理的な問題

1. 虐待を受けた子どもの心理的な問題

虐待を受けた子どもにみられやすい心理的問題は、不安、恐怖、過度の警戒心、愛着形成の障害、他者への共感能力の低下、自己評価の低下、抑うつなど、多岐にわたる。いずれの虐待においても、行動上や、精神的な問題が生じてくる可能性は大いにある。また、成長するに伴い症状は変化しつつ継続する。乳児期、幼児期に愛着障害と考えられた子どもが、思春期青年期には、学業不振、身体症状症、素行症、ひきこもり、解離症状、自殺企図など、青年期には、強迫行動、摂食障害、社会的孤立など、発達段階によって問題が変化してゆくことがみられる。十分なケアがない場合には症状がみられることが多く、またケアがあっても心理的問題は継続することは多い⁸⁾。

2. 逆境の体験の長期的影響

子ども期の逆境の体験の長期的影響を研究したACE スタディーにおいては、10年のフォローでACE スコア、情緒的・身体的・性的虐待、母への家庭内暴力、家族の精神疾患、家族の薬物濫用、家族の投獄経験者、片親、両親の不在、身体的・情緒的ネグレクトが高いほど、うつ、自殺企図、喫煙、物質乱用、不適切な性行為、長期欠席、重篤な経済問題や職業問題、身体疾患（肝硬変、慢性閉塞性肺疾患、冠動脈疾患、自己免疫疾患など）の精神面、身体面両方のリスクが高まるといわれている。つまり、子ども期の逆境の体験が、社会的・情緒的・認知的に影響を及ぼし、非行などの

危険な行動, 疾病・障害, 仕事につけないなどの社会的障害, 最終的には, 早期死亡へとつながり, 子ども期の逆境的体験が, 生涯を通じて, 心身の健康や幸せに影響するという結果が得られている¹⁾.

3. 虐待と PTSD

わが国における生涯の暴力被害(子どものとき養育者に殴られた, 配偶者や恋人に殴られた, ほかの誰かに殴られた, 武器で襲われたり脅されたりした)の経験率は38.7%であり生涯のPTSD有病率が4.0%, 生涯の性的被害(強姦された, 性的に暴行された, ストーカーに遭った)の経験率は15.6%であり生涯のPTSD有病率が6.5%である. 一般住民のPTSD生涯有病率は, 女性1.97%, 男性0.48%である. 身体的暴力や性的暴力などの虐待の被害を受けた場合, PTSDの発症率が高いことを示している³⁾.

4. トラウマ体験をした子どもと家族の治療

トラウマを体験した子どもとその家族の治療において, 最も重要なことは「安心感の保障」であると言われている. 何かを提供する以前に, 治療者や支援者が「子どもや家族を傷つけない」ということに細心の注意を払う必要がある. 被害を受けた子どもと家族が「自分でコントロールできている」という感覚を取り戻すことが, 治療や支援目標の1つとなる. また, 治療としては, 保護者と子どもへの心理教育, 薬物治療, 環境調整などに加え, 子どもにおいてはトラウマ焦点化認知行動療法(trauma-focused cognitive behavior therapy: TF-CBT), 成人においては長時間曝露療法(prolonged exposure therapy: PE療法), EMDR(eye movement desensitization and reprocessing)などが, 推奨されている²⁾.

おわりに

虐待を受けた子どもの心理的な問題と, 小児総合病院における対応について述べてきた. 虐待を

受けた子どもたちは精神面の治療を必要とすることが多く, 多くの場合継続した治療が必要である. しかし, 子どもへの治療のみでなく, 被虐待の経験をもつなど多くの養育者が精神症状を抱えていることを考慮し, サポート体制を作ることなども不可欠である. 次世代へと虐待の連鎖をつなげないため, 子どもと養育者を含む養育環境への働きかけが必要と考える.

なお, 本論文に関連して開示すべき利益相反はない.

文 献

- 1) Felitti, V. J., Anda, R. F., Nordenberg, D., et al: Relationship of childhood abuse and household dysfunction to many of the leading causes of death in adults: the Adverse Childhood Experiences (ACE) Study. *Am J Prev Med*, 14 (4); 245-258, 1998
- 2) 亀岡智美, 安部 紫, 岩切昌宏ほか: 子どものトラウマ診療ガイドライン. 平成22年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 H20-子ども一般-006 主任研究者: 奥山真紀子)「子どものトラウマへの標準的診療に関する研究」
- 3) 川上憲人: 疫学的知見. 心的外傷後ストレス障害(PTSD) [新しい診断と治療のABC, 70 (精神7)]. 最新医学社, 大阪, p.26-35, 2011
- 4) 厚生労働省: 児童相談所での児童虐待相談対応件数. 平成27年度児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値). p.2, 2016 (<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000132366.pdf>) (参照2016-11-01)
- 5) 大阪府立母子保健総合医療センター: 活動状況一病院 子どものこころの診療科. 大阪府立母子保健総合医療センター年報, 34; 55-56, 2015
- 6) 大阪府福祉部中央子ども家庭センター: 相談はどのくらいあるの—虐待相談の状況. 2016(<http://www.pref.osaka.lg.jp/kodomokatei/jigyuu/donokurai.html>) (参照2016-06-01)
- 7) 大阪府子ども家庭センター: 大阪子ども家庭白書 平成27年度(平成26年度業務実績). p.13
- 8) 田中 究, 前田宏章: 虐待を受けた子どもの心理. 治療, 87 (12); 3193-3199, 2005

Child Abuse from the Standpoint of a Child Psychiatrist in a Children's Hospital

Wakako MIYAKE

Department of Child Psychiatry, Osaka Women's and Children's Hospital

Child abuse is increasing year by year. Victims of child abuse experience serious psychological damage and often require psychiatric care because of maladjustment to their family or school. They may continuously show symptoms associated with psychiatric problems, and some of these symptoms persist until they become adults. Most adults who were abused in their childhood can look back on their abused pasts. This results in them facing difficulty in bringing up their children. Meanwhile, parents who have mental illness may also face difficulty in treating children harmoniously. Hence, there are needs for psychiatric treatment of the victims of child abuse and support programs for parents with mental illness.

< Author's abstract >

< **Keywords** : child abuse, psychological damage, children's hospital, child psychiatry >
